

虹技受注のごみ処理施設

# 八丈島で稼働

## 運転・維持管理も受託

鋳物大手の虹技（本社・兵庫県姫路市、社長・山本幹雄氏）が受注した東京都八丈島のごみ処理施設、新八丈町クリーンセンター（東京都八丈町）が完成し、稼働を開始した。17日には関係者が出席し、現地で竣工式が行われた。

同社は、創業100



八丈町クリーンセンター①、竣工式でテープカットをする山下奉也八丈町長（左から2人目）と山本社長（右端）



年を超える歴史の中で培った燃焼設備の心臓部であるストーカ（鋳物製炉床）や高効率な送風機などの技術を生かし、ごみ処理施設を数多く建設している。焼却設備の主要設備（燃焼設備、ガス冷却設備、通風設備、搬出装置、制御ソフトなど）を自社設計・製作する

事で、低コスト化と緊急時のメンテナンスのスピード対応を可能にしている。新八丈町クリーンセンターについ

ては、運転や維持管理も虹技が受託している。同センターは国立

公園内に立地しているため、排ガス中の有害物質の基準値を、法規制値を下回る厳しい自主基準値で管理していく方針で「今後は地域の安全、安定的なごみの処理の継続に貢献したい」（山本社長）としている。

八丈島では、以前のごみ処理施設が稼働後20年以上を経て老朽化し、ごみの適正処理が困難になったことから新施設の建設を計画。

2021年1月に着工し、24年3月に竣工。同社の受注金額は37億6100万円。施設の概要は、ストーカ炉により1日12トのごみの焼却が可能。可動式ストーカで連続定量供給を行い、燃焼温度の変動が少なく安定した燃焼を維持することができるとしている。マテリアルサイクル施設は1日0.58トのびん類や缶類、発泡スチロール、蛍光灯などを処理する。

